

ピースおおさか リニューアルにあたって

「広島・長崎の原爆の火」を燃やし続ける施設を設置してください。
大阪に落とされた模擬原爆に関する事実と展示を要望します。

「広島・長崎の原爆の火」を燃やし続ける施設を設置してください

理由1 原爆投下から68年経ってなお大阪には6692人の被爆者が住んでおられ(2013年5月、大阪府調査)高齢化が進んでいます。一方世界の核兵器は、少なくなったとはいえ19000発(2013SIPRI年鑑)を数え、一旦使用されれば人類絶滅に有り余るほどの威力を有しており、ビキニ水爆の犠牲となったマグロ漁船を含め、三度の核兵器の犠牲を受けた日本人にとって「非核三原則」に則り、世界に核兵器の悲惨な犠牲の実情を発信することは私たちの責務だと思います。

高齢化する被爆者にとって地元大阪に、原爆の犠牲者を追悼し、平和を祈念できる施設があることは大きな心の支えになり、またそのことを多くの被爆者は願っておられます。

理由2 「原爆の火」(または平和の火)の常時点灯施設は、全国に少なくとも30か所(地方では、奈良市の般若寺、地方自治体としては東京都港区など。大阪では東大阪市)近くあり、建設費も維持費もさほど高額ではありません。

大阪に落とされた模擬原爆に関する事実と展示を要望します

理由1 1945年7月、東住吉区田辺に模擬原爆が投下されたことが判明したのは、「ピースおおさか」が設置されたあとでした。原爆製造に成功したアメリカは実戦での投下を前にして50発の模擬爆弾(中身がウラン・プルトニウムでなくTNT火薬)を作り日本全国で投下訓練を行い、そのうちの一発が大阪に落とされたのです。現展示中の一トン爆弾の五倍もある爆弾でした。

理由2 この事実を最初に発見したのは、愛知県のNGOでしたが、米軍文書を翻訳し、大阪での投下場所を特定したのは「ピースおおさか」設立当時からの功労者である小山仁示関大名誉教授です。

理由3 田辺小学校近くの投下地点には犠牲になった遺族などの手で慰霊碑が建てられ、毎年、投下された7月26日に地元の方の協力で慰霊祭が行われています。

2013年7月9日

非核の政府を求める大阪の会 常任世話人
長尾正典